

小学校

教科【算数】

単元【三角形】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

時間を保障し自分のペースで友達との考えを比較、検討し、確実に自分の意見をもって話し合うことで、より深く学ぶことができる。

ICT活用のポイント

教科のねらいを達成するため、「ICTを活用する必要がある場面」を絞る。

使用する
ICT機器

大型提示装置、タブレット

使用するアプリ・
クラウドサービス等

Googleドライブ

クラウド
の活用☐教材の配布・回収等
☐生徒の学習状況の把握☒資料等の共有
☐その他（ ）本時の
ねらい

二等辺三角形、正三角形の性質に着目し、分類することができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○問題を提示する

一斉



・問題を全体に提示し、手順を視覚化して、確認する。



指針3

○三角形を作る

個別

・ストローを3本組み合わせて三角形を作る。
・発達の段階を考慮し実物を操作する。

ICT機器

○三角形を仲間
分けする

個別

・辺の長さという着目点を共有する。

展開

○自分の考えと
友達の考えを
比較し、説明
を考える

個別

・仲間分けした三角形を端末のカメラ機能で撮影し、Google共有ドライブに保存する。
・自分の考えと共有ドライブに保存された画像を比較し、より相手に伝わりやすい説明を考えるため、時間を保障する。

・保存された画像を活用しながら、仲間分けした理由について学級全体で話し合う。

○三角形の仲間
分けした着目
点を交流する

協働

○三角形の性質
を確認する

一斉



・二等辺三角形、正三角形と辺の長さが等しいこと、等しい記号について確認する。



ここで評価

【思】三角形の辺の長さの関係に着目して分類し、特徴を見いだしている。

終末

○練習問題に取り
組む

個別



・性質を活用できるよう、コンパスを使って練習問題に取り組む。

○振り返る



・学習内容について振り返る。

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度